

1. 授業の概要(ねらい)

春期に引き続き、受講生が理詰めでものを捉えたり考えたりできて、それを分かりやすく筋道を立てて文章や口頭で表現できるようになることを目指します。

社会・政治・経済・国際の事象を題材にして、物事を正確に、合理的に捉えたうえで自分なりの考え方をまとめる習慣、力をつけてもらうという手法を授業の柱にする点も、春期と変わりません。秋期ではしかし、なぜそうした事象が現れているのか、そこから何を汲み取るのかといったところまで掘り下げていきます。

1つのクラスでは、比較的短く平易に書かれた英文を、的確な日本語に置き換えることによって、論理的な表現力を磨いていく授業も継続します。

2. 授業の到達目標

春期と同じく、理にかなった捉え方ができるようになること、ポイントを的確につかめるようになること、そして、それらについて筋の通った表現ができるようになることに主眼を置きます。

3. 成績評価の方法および基準

春期同様、提出を求めるレポート課題や授業内の小論テストなどの出来栄を評価し、それらを総合的に判断して成績を決定します。

4. 教科書・参考文献

教科書

教材は全てこちらで用意し、授業で使うレジュメや記事、資料もこちらで作成・印刷して、毎回、配布します。

5. 準備学修の内容

レポート課題の提出や英文の下調べなどの準備学修は、春期にも増して求められます。授業内で行う小論テストでは、十分に復習したうえで臨む必要があることは言うまでもありません。

6. その他履修上の注意事項

取り上げる事象について詳しく説明したうえで、受講生との間で質疑応答を行います。積極的に参加して意見を述べる姿勢が、春期以上に求められます。国語と英語の辞書、あるいは電子辞書が必携です。それから、専用のノート1冊用意してください。

7. 授業内容

- 【第1回】 春期小論テストの講評と文章の検証を通じて論理的な文章の書き方を学ぶ。
- 【第2回】 社会・政治・経済・国際の事象をテーマに考える力を身につける(扱ったテーマの事例:「18歳選挙権」と小論課題の作成)。英文を日本語にしている確に表現する力も強化する。
- 【第3回】 社会・政治・経済・国際の事象をテーマに考える力を身につける(扱ったテーマの事例:主権者教育のあり方で意見を提出)。英文を日本語にしている確に表現する力も強化する。
- 【第4回】 社会・政治・経済・国際の事象をテーマに考える力を身につける(扱ったテーマの事例:上記課題講評と主権者教育の議論)。英文を日本語にしている確に表現する力も強化する。
- 【第5回】 社会・政治・経済・国際の事象をテーマに考える力を身につける(扱ったテーマの事例:大坂なおみらスポーツ選手の抗議)。英文を日本語にしている確に表現する力も強化する。
- 【第6回】 社会・政治・経済・国際の事象をテーマに考える力を身につける(扱ったテーマの事例:スポーツチームの発信、小論作成)。英文を日本語にしている確に表現する力も強化する。
- 【第7回】 社会・政治・経済・国際の事象をテーマに考える力を身につける(扱ったテーマの事例:「福男選び」ズル勝ちめぐり物議)。英文を日本語にしている確に表現する力も強化する。
- 【第8回】 社会・政治・経済・国際の事象をテーマに考える力を身につける(扱ったテーマの事例:「福男ズル勝ち」問題で意見交換)。英文を日本語にしている確に表現する力も強化する。
- 【第9回】 社会・政治・経済・国際の事象をテーマに考える力を身につける(扱ったテーマの事例:カタカナ語氾濫の是非で意見提出)。英文を日本語にしている確に表現する力も強化する。
- 【第10回】 社会・政治・経済・国際の事象をテーマに考える力を身につける(扱ったテーマの事例:カタカナ語めぐる意見踏まえ議論)。英文を日本語にしている確に表現する力も強化する。
- 【第11回】 社会・政治・経済・国際の事象をテーマに考える力を身につける(扱ったテーマの事例:専門書の悪文を修正する課題作成)。英文を日本語にしている確に表現する力も強化する。
- 【第12回】 社会・政治・経済・国際の事象をテーマに考える力を身につける(扱ったテーマの事例:上記課題の講評と論理的文章解説)。英文を日本語にしている確に表現する力も強化する。
- 【第13回】 社会・政治・経済・国際の事象をテーマに考える力を身につける(扱ったテーマの事例:ホテルオークラ本館建て替え問題)。英文を日本語にしている確に表現する力も強化する。
- 【第14回】 秋期授業のおさらいと授業内小論テスト
- 【第15回】 第8回目の週にLMSによるオンライン授業を受け、社会・政治・経済・国際の事象をテーマに考える力を身につける。英文を日本語にしている確に表現する力も強化する。